

写真で遊ぶ

昭和46年卒 多田 和雄



昨年10月に昭和46年卒業生の卒業50周年記念同窓会が開催されてカメラマンを担当致しました。そのご縁で本欄に書かせていただきます。

【写真の経歴】

「趣味は写真です」と言うようになって30年になります。もともとは家族写真程度でしたが中判カメラを使いだしてから深みにはまりました。ブローニーという紙巻きのフィルムで1枚が6cm×7cmです。中判カメラの中でも特にマニアックな蛇腹式のカメラでした。三脚が必須、ルーペをのぞいてピント合わせ、露出計で測って絞り・シャッタースピード設定、などすべて手動で、1枚写すのに最低10分、通常は1カ所30分くらい時間かかりました。2000年代に入るとデジタルカメラの性能が上がりました。一千万画素は35mmフィルムと同等で、二千万画素になると中判フィルムと同等になったのでデジタルに乗り換ええました。今は四千万画素のカメラを使っています。

【デジタル修整】

デジタルは簡便で色々リットがあり、私が活用するのは修整可能な点です。「レタッチ・修正・補筆」、「オマージュ・引用・真似る」などの言葉を使いますが、要は歪曲・捏

造です。

フィルムカメラでは風景写真の撮影時に最も良い場所を選んでも、手前に電柱・電線・看板などがあれば位置を変えなくてはなりません。

修整可能なら、最適な場所で撮影して後で邪魔物を消せばOKです。

写真とは真実を写すと書きます。警察の鑑識課が殺人事件の現場撮影するには問題ですが、洒落で遊んでいるので歪曲・捏造も趣味のうちと考えています。

撮影は一瞬でもパソコンでの修整加工はネチネチとこねくり回して2日も3日も遊べます。金のかからない暇つぶしです。↑これが最大の利点

【写す対象】

写す対象は、富士山、桜、紅葉、などの風景写真です。

●新幹線試験車ドクターイエロー(7画)。「ドクターイエローを見ると幸福になれる」という都市伝説があります。運行予定日の裏情報がないターネットに掲示されていて、有名な撮影スポットには撮り鉄マニアが多数います。

●ダイヤモンド富士(富士山頂に日没)。太陽は冬至から夏至にかけて移動し、富士山を基点にして撮影位置が毎日移動します。インターネットに本日の撮影場所が掲示されて、ヒ

マなジジーが集まります。

●パール富士(富士山頂から月の出)。ダイヤモンド富士は晴れた日には毎日撮れますが、パール富士は大変です。月の出は毎日50分ずれていきます。昼間は明るすぎて月が写らず、夜中は暗すぎて富士が写りません。月と富士山の両方が写るのは日没頃の薄暗い時間帯で、満月前後の2〜3日に限られます。

●信任状捧呈(ほうてい)式。新任の外国大使は母国からの信任状を天皇陛下に捧呈します。この時、東京駅貴賓室から皇居まで馬車で送迎します。東京駅のレンガと馬車が中世の西洋の城のようです。

【写真コンテスト】

写真コンテストで選ばれるのは「過去に類の無い、新機軸」のもので、私が好む「まるで絵葉書のような写真」は入選しません。

各種のコンテストの中で「修整を問わない」コンテストに2回入選しました。

①栃木県小山おやま市、田んぼアートフォトコンテスト 賞物券5千円

②港区フォトコンテスト 賞物券7千円+ はとバス優待券4千円

【古いフィルム】

長年撮影してきたフィルムが大量にたまっていたので、終活のため約半年かけてデジタル化して殆ど廃棄しました。せっかくデジタル化したので古い写真をネチネチと修整して失敗写真を救済しました。

【最近マンホールを】

コロナのため遠出ができず近隣のデザインマンホールを撮っています。各地の市役所の下水道課は地味なマンホールに興味を持ってもらおうと、地元ゆかりの人物やアニメのキャラクターをマンホールにしています。汚れやキズをネチネチと修整しています。

「趣味はマンホールの掃除です」の今日この頃です。

写真作例は同窓会ホームページの会報欄をご覧ください。



原画



修整後